

# 令和2年度 学校評価報告書

丹波篠山市立味間小学校

校長 松 笠 勝 也

## 1 学校教育目標等

夢や目標を持ち、将来にわたって学び続ける児童の育成

## 2 今年度の重点目標

- (1) 夢や目標をもち、自立して未来に挑戦する児童の「生きる力」を育む
- (2) 確かな学力の育成をめざし、自ら学び自ら考える授業を創造する
- (3) 児童が持っている良さや可能性を引き出し、望ましい生活習慣の定着を図る
- (4) 保護者・地域との連携を深め、ふるさと味間に根ざした「地域とともにある学校づくり」を探究する。
- (5) 安全安心な学校づくり・学級づくりを基盤とした、豊かな人間関係と人権感覚を育成する。
- (6) 自分の健康や体力に興味をもち、体育やスポーツ活動の楽しさや喜びを味わわせ、体力・運動能力の向上を図る。

## 3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
キャリア教育	児童に夢や目標を持たせ、学ぶことの意義について指導している。	B	様々な学習活動で児童一人ひとりの言動に目を向けたり、耳を傾けたりしながら、学校生活全体を通して、児童が夢や目標を持って取り組めるように指導していく。
学習指導	児童一人一人が1時間の学習に満足できる授業にする。	B	全ての子どもにとって「分かる授業」を目指して、教職員間で学び合いながら授業力の向上に励む。そして、児童が意欲的に学ぼうとする姿が見られる授業をしていく。
	児童が、主体的、対話的で深い学びができるよう指導方法を工夫している。	C	児童が自信を持って自分の意見を発表できるような学級づくりを心がける。児童が自分の意見や考えを発表したくなるような、友だちと話し合いたくなるような授業を行う。
生徒指導	いじめや仲間はずれを許さない楽しく明るい学校生活を送れるよう指導を行っている。	A	学校生活の中でも、困っている友だちに声をかけたり、助けたりしている姿をよく見かける。道徳の時間等で、「いじめは絶対にいけないこと」や、「友だちを大切にすること」について考えさせている。
	あいさつや基本的な生活習慣が児童に定着するよう、手立てができていく。	B	感染予防でうがいや手洗いができている児童が多い。しかしあいさつする児童が多いとは言えない。今後も、学級活動や道徳の学習を通して基本的な生活習慣が身につくように指導をしていく。
ふるさと教育	丹波篠山のよさを児童が見つけられるように、地域の人材・自然・施設を積極的に授業に活用している。	C	今年度は、感染症予防のため体験学習の機会が大きく減っている。今後は、地域の人材を学校に招いたり、インターネット等を活用したりして、ふるさとについて学べる機会を増やしていく。

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

- ・キャリア教育で「夢や目標を持つ」については「だいたい思う」まで含めると9割になるが、味間小学校は1学年3クラスあるので、先生同士で協力して「よく思う」の割合が増えるよう努力してほしい。

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・安全指導について、児童の怪我や事故がないように指導していくのは大切であるが、学校生活上怪我や事故はどうしても起こるものである。起こった際に事後対応をどうするかが大切である。
- ・今年は、コロナ禍で先生方も指導に苦慮されたと思う。先生の元気な様子が子どもに伝わるので働き方にも工夫してほしい。

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"><li>・国際学力調査の結果、日本の教育は画一的で発表する力が弱いと言われている。これまでの教育は暗記することが中心であったが、今後は将来に向けて自分から表現したり発信したりする力が求められると思う。5月までは休校があり、児童は授業についていくのが大変だったと思う。自分の考えを言える子どもをつくっていくことが大切だと思う。</li><li>・道徳の学習では、価値観の押しつけでなく場面に応じて「自分ならどうするか」について意見を述べ合うことが大切と思う。</li></ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"><li>・不登校傾向の児童が増えている現状がある。コロナ禍で、子どもたちの心にも影響があるのではと感じる。家庭での貧困が子どもたちの生活にも影を落としているのではないだろうか。スクールカウンセラーの有効的活用や市の福祉部局とも連携を図っていく必要があると思う。</li><li>・生徒指導上の問題は学校の指導に焦点が当てられることが多いが、学校、家庭、地域、関係機関などみんなで考えていくことが大切である。</li></ul>
ふるさと教育	<ul style="list-style-type: none"><li>・今年度は、コロナ禍で体験活動があまりできていないとのことだが、「ふるさと教育」について、今後どうしていけばいいか考える必要がある。味間には人材が多いと思う。発掘していくことが大切だと思う。学校とまちづくり協議会が連携して、取り組んでいくとよいと思う。子どもの意見を生かしていきたい。</li></ul>